

9月3日のウクライナ情報

安齋育郎

●ザポリージャ原発情報(2022年9月1日)

#ロシア国防省発表 ザポロージャ原発アプデ

モスクワ時間午前6時、ウクライナ兵と2グループの作業員、60人が7隻のボートに乗って原発から北東へ3キロのカコフスキ貯水池に上陸。原発制圧を試みた。

ロシア軍は陸軍航空隊を使い敵を破壊する措置を取った。

午前8時以降、IAEAの調査団のいるヴァシェフカと原発に対するウクライナ軍の砲撃が激化している。

第1ユニットから400メートルのところで4発の砲弾が爆発した。

●ザポリージャの住民、動く(2022年9月2日)

ザポリージャの住民が、IAEA 事務局長のグロッシ氏に“ウクライナからの砲撃”について訴え、2万を超える署名を渡した。

<https://twitter.com/ijinmeigen001/status/1565372374794784770?s=20&t=R76jULA5r-MqxB4uGqvD7A>



●ザポリージャ原発職員の献身的努力を確認 = IAEA 事務局長(Sputnik,2022年9月2日)

国際原子力機関(IAEA)の専門家らは、ザポリージャ(ザポロジエ)原子力発電所周辺で困難な状況が続く中、献身的に活動する職員らの姿を目撃した。世界はこの事態を知る必要がある。IAEA のラファエル・グロッシ事務局長が記者団に指摘した。

グロッシ事務局長は記者会見の中で次のように発言した。

「私にとって活動はいま始まったばかりである。我々は最初の分析を行った。我々は発電所職員の献身的な活動を目撃した。かなり複雑な状況があるものの、彼らは専門家として自らの職務を遂行している」

グロッシ事務局長によると、IAEA の専門家らは長期的に原発に滞在し、引き続き状況の分析と現

場周辺での戦闘行為に伴うリスクの分析を行うという。

グロツシ事務局長は 1 日にザポリージャ原子力発電所に到着し、代表団は原発敷地内を見学、発電所の施設を確認した。また、ウクライナ軍による砲撃の形跡も確認した。

原発があるエネルゴダル行政政府のアレクサンドル・ボルガ首長によると、IAEA のメンバーのうち 8 人から 12 人が発電所に残り、グロツシ事務局長をはじめとするその他の専門家らは既に同地域を退去したという。

●IAEA 調査団のザポロージャ原発視察について国連の会見(2022 年9月1日)

<https://www.youtube.com/watch?v=mv75L7s2p-Y>



●ポーランド製無人機もザポロージャ原発攻撃に使われる(2022年9月2日)

ウクライナがザポリージャ原発へのテロに使ったポーランド製の TNT 爆薬搭載無人機

<https://twitter.com/Tamama0306/status/1565361538420330497?s=20&t=R76jULA5r-MqxB4uGqvD7A>



●ダグラス・マクレガー「バイデン氏はウクライナ戦争で負ける」(2022年9月1日)

バイデン米大統領はロシアとの代理戦争を行いながら、ウクライナでの戦いで敗北を期している。ダグラス・マクレガー大佐(69)は米月刊誌「The American Conservative」への寄稿の中でこうした確信を表した。

「バイデン氏はロシアとの代理戦争を最後まで戦い抜くと決意をしたことで、ウクライナでの戦いに敗れ、お気に入りの神の馬である NATO は生命維持装置につながれている。唯一、バイデンの支持率より速く落ちるのは、米国と欧州の経済だ」

マクレガー氏は、NATO の抱える主な問題とはバイデン氏の行う対露制裁のために、欧州が経済のハルマゲドンの危機に直面していることだと指摘し、例として、EU 最大の経済国で、NATO の主要国に数えられるドイツが困難をかこう現況だと指摘した。

●シリア石油鉱物資源省は、米国がシリアで1日平均66,000バレル、国の石油生産量の約80%を盗んでいると発表(2022年8月31日)

シリアの石油鉱物資源省は2月5日、2011年3月の「アラブの春」波及を機にシリア内戦が発生して以降、現在に至るまでの石油部門の直接・間接の被害総額が約1005億米ドル(約11兆6000億円)に達すると発表していた。このうち、1日平均で1万6000バレルが政府支配地域で精製される一方、1日平均7万バレルが東部地域を占領する米国とその「傭兵」(クルド民族主義組織の民主統一党(PYD)が主導する人民防衛隊(YPG)主体のシリア民主軍、北・東シリア自治局など)によって盗奪された。

米国は、イスラーム国に対する「テロとの戦い」を行うとして、2014年9月からシリア領内での爆撃を開始、2015年10月から地上部隊を駐留させるようになった。2018年10月には、シリア領内の油田を防衛すると主張し、ダイル・ザウル県やハサカ県の油田地帯を中心に基地を設置し、違法駐留を続けている。現在、シリア領内には27カ所(ハサカ県15カ所、ダイル・ザウル県9カ所、ラッカ県1カ所、ヒムス県2カ所)の米軍基地があり、900人とも3,000人とも言われる将兵が展開している。

シリアに駐留する米軍は、ダイル・ザウル県やハサカ県で生産される原油、食糧を、イランとの国境に違法に設置したワリード国境通行所を通じて定期的に持ち出している。

<https://twitter.com/syuugoro2/status/1564774287520567296?t=480Por-DnMLxJvUqKn5fIg&s=09>

●ウクライナ軍南部反転攻勢アップデートの実情(ロシア国防省、2022年8月30日)

ゼレンスキー政権によるニコラエフ-クリヴォイ-ログ戦線の南部反転攻勢の失敗状況

✳️ アルカンゲルスコエ、オルギノ、タノヴェボディへの攻撃はロシア軍により大損失、押し戻された。

✳️ スーホイ・スタヴョク第57自動車歩兵旅団は惨敗し、残骸も除去完了

✳️ ポーランドからウクライナへ提供された12台の戦車はインギュレツ川を渡り戦線へ配備されたが、ロシア軍の猛攻撃により数台を破壊。また数台は撤退中に自軍の地雷原に入り自爆。

✳️ ニコラエフ-クリヴォイ-ログ戦線での2日間における攻撃の失敗により、ウクライナ軍はSu-25s 2機、Su-24 1機、MiG-29 1機、Mi-8 3機が空中で撃墜され、戦車63台、歩兵戦闘車59台、装甲戦闘車48台、大口径砲付きトラック14台を破壊。1,700人が死傷した。

●ロシア軍がハリコフ地域の学校と幼稚園に人道支援(2022年8月31日)

教科書や参考図書が配布されている。

<https://twitter.com/GOrwell2022/status/1564876918867996672?t=xfm86f8NLZmnAeKICCOh Q&s=09>



ロシア軍による学校の警備

<https://twitter.com/i/status/1564877356820336641>

●キーウの若者の格差(2022年8月30日)

キーウ(キエフ)の夜に政治家や金持ちの子弟ら特権階級を含む若者がフィーバーして遊びまわっているのに、貧しい人の子どもは前線に送られる。これはウクライナにおける不条理である。(日本語字幕はないが、雰囲気は良く分かる)

<https://twitter.com/i/status/1564323097796378625>



●ドネツク市に対するウクライナ軍の無差別攻撃(2022年8月26日)

8月23日の正午頃、ドネツクの中心部が2回砲撃された。幾つかの建物、病院、中央ホテル、ドネツク人民共和国の大統領府の建物が被害を受けた。爆発時に車で移動していた2人の民間人が死亡、少なくとも5人が負傷し、うち1人は重傷です。着弾跡に米軍の「HIMARS」ロケットの残骸が発見された。

●潰されていくドイツ(田中宇、2022年8月23日)

<https://tanakanews.com/220823europ.htm?s=09>

●外務省発表の日本のウクライナ政策(2022年

- 1 8月23日、ウクライナ政府は、第2回クリミア・プラットフォーム首脳会合をオンラインで開催し、ウクライナからヴォロディミル・ゼレンスキー大統領（H.E. Mr. Volodymyr ZELENSKYI, President of Ukraine）及び関係閣僚、並びに関係国政府・国際機関の首脳等が出席しました。
- 2 同首脳会合に際し、岸田文雄内閣総理大臣が、概要以下のビデオ・メッセージを送る形で参加しました。
 - (1) ロシアによるウクライナ侵略は、欧州のみならず、アジアを含む国際秩序の根幹を揺るがす暴挙です。日本は、クリミアを含めたウクライナの主権及び領土一体性を一貫して支持し、一方的な現状変更の試みには断じて反対します。
 - (2) 日本は、強力な対露制裁を講じるとともに、人道支援、財政支援、装備品等の提供、物資輸送支援等のウクライナ支援を実施してきました。今後も、先般のG7エルマウ・サミットにおいて発表した追加支援を含め、総額約11億ドルの支援を実施していきます。
 - (3) ロシアによるウクライナ侵略が長期化する中、国際社会が結束して対応することが重要です。今週末のTICAD8の機会を捉えたアフリカ諸国への働き掛けなど、これからも、我が国独自の取組を全力で進めていきます。
 - (4) 日本は明年、G7の議長国を務めますが、ウクライナにおける一刻も早い平和の回復及び復興の実現に向け、国際社会と緊密に連携しつつ、また日本の経験を活かし、最大限の努力、積極的な貢献を続けていきます。

●ウクライナ軍のケルソン一斉攻撃の結果(2022年9月2日)

テロ攻撃では一定の「成果」を出しても、正面からの軍事作戦ではロシア軍に歯が立たないらしいウクライナ軍。今回のケルソン一斉攻撃でも、結局は大敗北し、多くの死傷者を出した。

<https://twitter.com/ijinmeigen001/status/1565480745459671041?s=20&t=R76jULA5r-Mqx B4uGqvD7A>

※ア斎注:こうした実態はおそらくウクライナの西部の国民にはストレートに伝わっていないでしょうね。なぜ反戦・不戦の声がウクライナ国民から聞こえてこないのか。ゼレンスキー独裁政権の抑えつけが厳しいのか、今そんなこと言ったら極右民族主義者らに袋叩きに遭うのか、この戦争はウクライナ東部のロシア語話者をめぐる戦いで「私らには関係ない」とすっとぼけているのか、とにかく早くこういう戦闘をやめないといけません。

繰り返しますが、「勝ち負け」をはっきりさせなくていいから、アメリカとNATOとウクライナがウクライナのNATO化の方針を転換し、ウクライナが極右民族主義勢力に対する政策を明らかにし、それを受けてロシアが戦闘を直ちに停止して、ロシア制裁に加わっていない国々も含めた公正な仲裁体制を築いて和平交渉に乗り出すことが大事です。

●ドイツ外相がウクライナの徹底抗戦を支持、野党の猛烈な批判を呼ぶ(Sputnik, 2022年9月2日)

アンナレーナ・ベアボック独外相がドイツにおける有権者の意見を度外視してでもウクライナへの支援を必要な限り実施すると表明したことを受け、野党「ドイツキリスト教民主同盟」や、「左翼党」、「ドイツのための選択枝」の党幹部から批判が相次いだ。

ベアボック外相は8月31日にチェコの首都プラハで演説を行った中で、次のように発言した。

「私がウクライナの皆さんに対し、皆さんが必要と思うまで私たちは共にいると約束した以上、私はこの約束を守ります。ドイツにいる私の有権者が何を思うかは大事ではない。私はウクライナの人々に対する約束を守りたい」

こうした発言にドイツの野党は批判を強めている。その例として、「左翼党」の元党首、ザーラ・ヴァーゲンクネヒト議員はベアボック外相の発言について、ドイツの有権者ではなくウクライナの有権者を優先することは間違いであり、ドイツにとって危険であると非難した。

また、「左翼党」のセヴィム・ダグデレン議員は、ドイツ国民の77%が交渉による軍事行動の停止を

要求していることを指摘し、徹底抗戦の構えを批判した。

「ドイツキリスト教民主同盟」のノルベルト・レットゲン議員は最後通告ではなく、優れた論拠を提示するようベアボック外相に助言した。

「ドイツのための選択肢」のアリサ・ワイデル共同党首は、外相退陣の機は熟したとツイッターへの投稿で記した。

ドイツではツイッターでハッシュタグ「ベアボックを退陣へ」(#BaerbockRuecktritt)がトレンドのトップに上がっていた。

